



往来物
44

阪教大

大阪教育大学

女教訓錄草

○夫女は四徳を肝要に
と云ふは、臣の事の中に徳客の
二つと云ふは、これ心と魂と刑
と云ふやうなる人、女は宮
中のまじれども、人、能く、賢
いでも、何事かの社会ともなり、寂
けり、迷ふべき事と云ふれば、後更
づ、情ひ、いふ事なり、何れと云ふ
こと、いふ人とも、心、に、お
よ、一、正の、徳、も、お、よ、て、お、よ、
ぬ、あ、の、人、心、の、徳、と、い、ふ、
なり、徳、は、外、面、何、事、内、
心、も、お、よ、ぬ、こと、は、お、よ、ぬ、こと、



乳形斗ふ^うく^くきとせんく
 かま^かま^まは^は共^{とも}鬼^{おに}人^{ひと}何^{なん}う^うの^のと
 ま^まう^うされ^れバ^バ風^{ふう}雨^うふ^ふて^てん^んを
 襲^{おそ}ふ^ふの^の法^{ほう}や^やも^も目^めの^のれ^れき^きま^まは
 夜^い裳^{やう}の^の中^{ちゆう}も^も高^{たか}時^{とき}の^のき^きの
 お^おと^と付^つ白^{はく}彩^{さい}あ^あう^うく^く凍^{ひやう}め^めま
 たる^たは^はう^うら^らま^まど^どを^をふ^ふは^はこ^こる^る
 甚^まだ^だの^の中^{ちゆう}れ^れと^と傾^{けい}城^{じやう}提^{てい}女^{にょ}
 と^と疾^いの^の女^{にょ}れ^れ未^みの^のは^はう^うを^を
 變^へて^て又^{また}習^{しゆう}ふ^ふう^うへ^へも^もく^く
 管^{かん}に^にも^も大^{だい}く^く人^{じん}の^の心^{しん}は^はも^もう^う細^{さい}
 交^{かう}ふ^ふて^ても^もか^から^らう^うと^とな^なれ^れバ^バ和^わ
 ね^ねに^にや^やれ^れや^や何^{なん}と^とま^まる^るた^た
 ふ^ふ懸^{けん}お^おや^やじ^じく^くも^も何^{なん}く^くも^も有^ある^るは
 ね^ねと^とり^りし^しめ^めの^の今^{こん}肝^{かん}要^{よう}を^を後^ご



○ 丈草の葉の女中第一の藝
 世間又奴の小お茶の味練
 とさへく裁縫のてぬぬ人
 たる人家も人多くけりて
 おめい女と並ぶるも
 女の狭つむごころぬひの業
 心づくし 青文王とす 吾人の店
 有縁徳院よりけりぬい
 直にふも人々これを見
 ありさる女いと雅なう
 おめい女とあつむぬと日
 さればあつむるさるさるめ
 人衣合夜の言のきかき
 おれいさるはせさるはさる

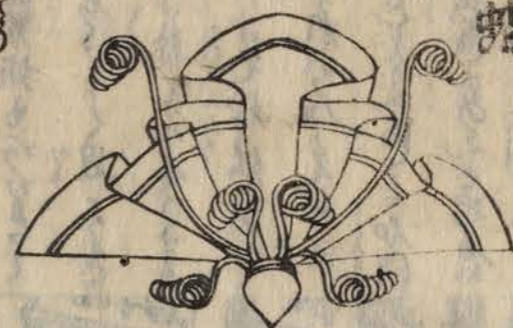


衣あつむるかきぬくの武
 はつと人ともたけきと
 たるんあつむるかきぬ
 ○ 天あつむる地あつむるん一切
 諸あつむるさるさる
 ○ 千早振袖のあつむるさる
 このあつむるも富さるぬ
 ○ ちりぬのあつむるさる
 裁つるさるさるさる
 ○ 朝日さるさるさるさる
 あつむるさるさるさる
 ○ いそに裁つる
 津のさるさるさるさる
 附くさるさるさるさる

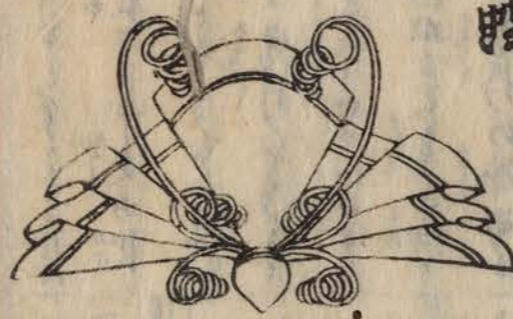


蝶花折秋圖

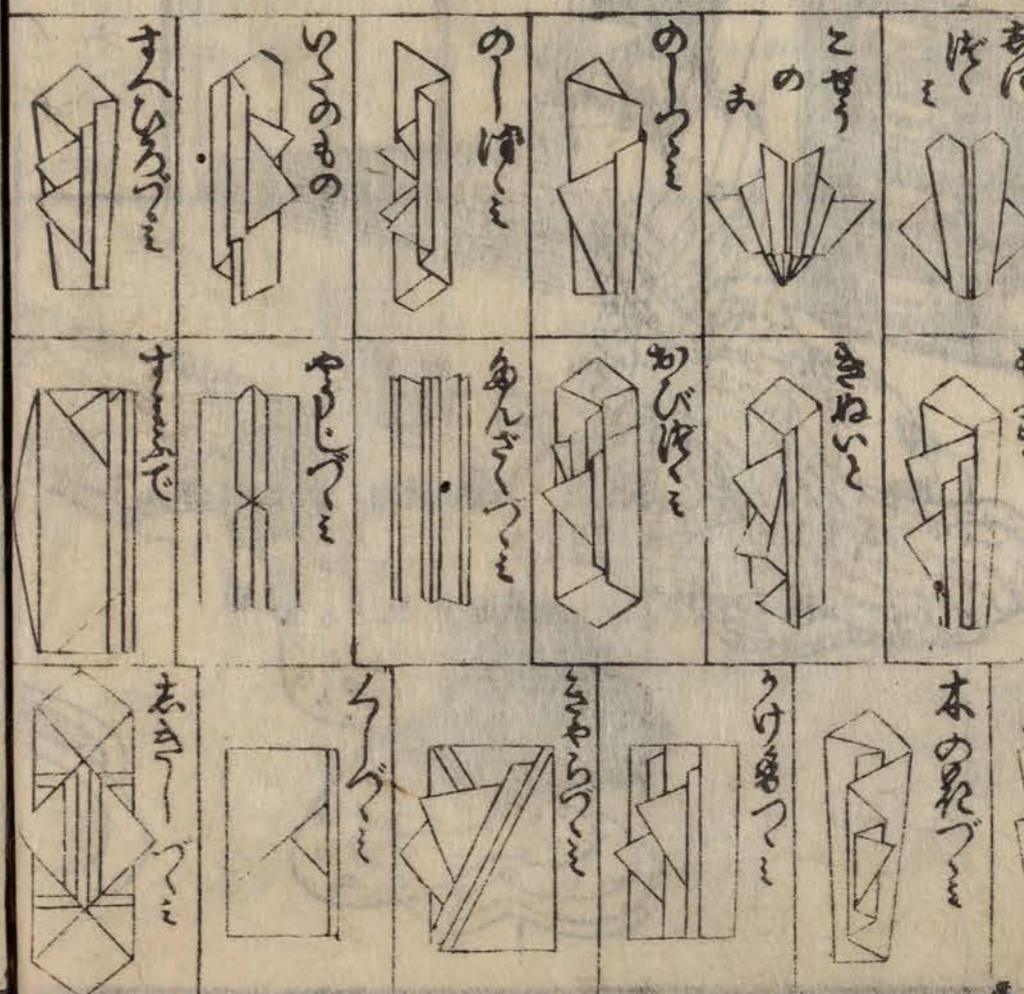
雄蝶



雄
蝶



小笠原折秋之圖



外大 学

一丈女子成長

し
く
佐
人
の
が
へ

仍
男
姑
不
仕
子

李杜東坡

男おとこふふよりよりもも親おや乃

自來水制

銅乃條

一常此心也

く女の道不明事

一 吾に如無量の文あり

未の半にむ事

一かゝるやうな

波と雄子と

人

一 大事と云ふ辨へなく

おのれは事

一父母乃你父母是

孝子乃陳子成事

一おと支を、病し先うれ

五で天道を認める事

二 道に宵ても来る者

試之歷也保不棄

一 心樂こころがたのしみなりてなりて養ふやしなふ人ひと

と
授
け
る
事

敬
由
之
樂
耳

子生之父母

翻ひるがへ變かへ々々恣し心こころに

育こゝろぬきもぐおろまの

家山心氣

陸
子
文
公

牛乳又ハ
此海

心
一
萬
年
鍾
情

男
女
學
成
恨
罷

中な 熟じゆ 形かた

紙
上
無
過
中
之
凡

袖と曝と女ふる



一 提長下式を度
 一 提長下式を度
 一 提長下式を度
 一 提長下式を度

心ゆく人仕敷成
 一 女侍利根の連
 一 女侍利根の連
 一 女侍利根の連
 一 女侍利根の連

父母家初おはるを
 謂どく男まは
 魚きやのとおらん
 保なり先皆女ふ
 此親のくあは
 伸くおり

一 女侍利根の連
 勝きふと若くは
 心ゆく人仕敷成
 一 女侍利根の連
 一 女侍利根の連
 一 女侍利根の連

と女に言はせ給ふ事

む事

一人を非とていふ事

に智ありやと云ふ事

一家沙門の對面とて

いふ事と例とをある事

家分除けと云ふ事

穢しむる事

一男の自死と云ふ事

に法をいふ事

一男が女を盗む事

一男が女を盗む事

一男が女を盗む事

一男が女を盗む事

一男が女を盗む事

一男が女を盗む事

一男が女を盗む事

一男が女を盗む事

一男が女を盗む事

一男が女を盗む事

さうかくに就きて人

先立人紙恨嫉と

我より後人

清くわれ人

向たる人

に違ふ人

和を唄ふ人

信小情

哉と

一女

男女

を

陰に多きなり。女名なり。陰陽。未だ。天。地。自然の道。天地。夫婦の道。天地。事。人。なま。ま。天。乃。く。熟。ひ。さ。か。見。は。り。初。め。の。あ。は。れ。な。る。と。く。車。の。あ。る。と。

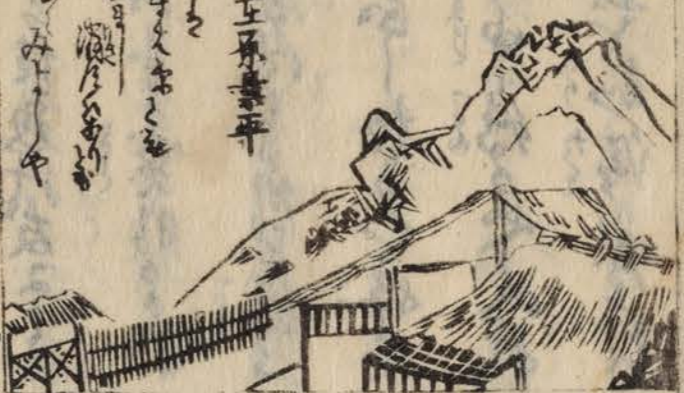
おみ交り。飯。初。め。を。孫。が。は。り。に。賊。も。い。ふ。小。と。あ。る。う。び。水。を。方。家の。家。に。あ。る。む。人。無。き。後。の。あ。る。む。少。し。の。事。実。の。あ。る。む。家。の。あ。る。む。か。は。る。む。女。に。あ。る。む。と。好。む。と。し。申。す。も。人。に。あ。る。む。と。知。る。む。か。は。る。む。

兄。弟。も。も。別。れ。心。く。と。く。と。取。り。今。時。代。民。家。の。此。様。の。法。を。知。り。て。行。規。我。れ。の。名。を。職。親。兄。弟。の。事。を。

あ。く。一。生。身。我。家。の。事。は。有。り。惜。さ。事。ふ。り。は。や。か。く。父。母。の。命。と。妹。姉。と。ふ。り。を。し。れ。ば。交。り。に。親。は。と。小。

三月

壬辰年

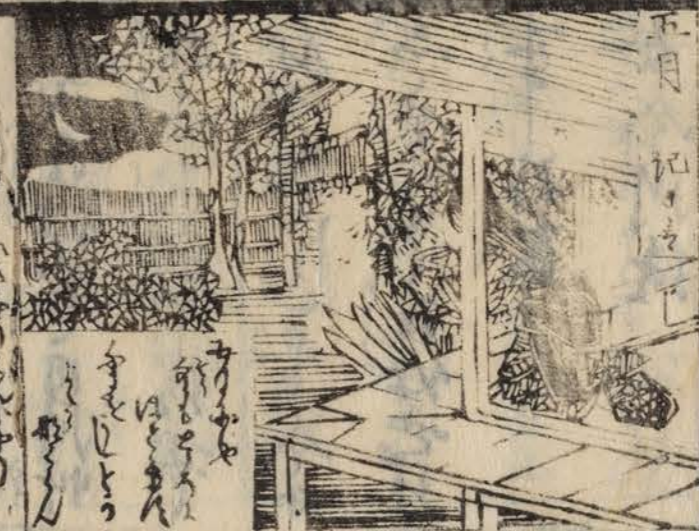


其人若親む事我
兄も何いふる事
いふは此の如き事
なりと我も親む事

かゝる事なれば
事なれば其の如
くもこれと云ふ事
いふ事と云ふ事
いふ事と云ふ事
いふ事と云ふ事
いふ事と云ふ事
いふ事と云ふ事

家も見入り候令
庭と夫も心成
金石れどくに
あふ義と守るべ
一婦人々夫れ家
とが家と云ふ家

度と云ふ嫁と云
とふ家と云ふ
事と云ふ事
候令夫の家
ありと云ふ家
夫と云ふ家



女子將教訓状
 更子將織縫の五
 歳より古に巴板
 顔より外極き

武士其國小異なり
 我れとるより初
 の如女物受其門小
 八とれち。沙面と太
 乃更にさす。その
 我れ小むるより
 成金一紙書現
 い物とに親し机
 文庫と城郭摘
 板より筆いおれ

きれどさふ入小病
 ちとれぬさ疾有
 とも六より多きと
 情なくおいにさ
 親族も中忍く
 何う家人さるをれ

ちきさる去金一七に
 多物と盗む心いふ
 けふ此七去ハ皆聖
 人の教なり女ハ友
 姉一より其家ハ中
 されてハ假令再死